

【企画・記事の組み方】何をどの様に伝える？

企画や記事を構成する際に次の手順で広報部内で構成会議を行います（一例）。

①今回の広報紙全体で何を伝える？

→伝えるテーマが少ない方が紙面に統一感が生まれ易いが、2～3くらいが作りやすい

②①を伝える為に使える題材（行事・人物・ニュース等）を考える（探す）

③それぞれの記事ボリュームを仮に決める（仮レイアウトを作る）

④その記事・企画が伝わりやすい「写真」「人物への取材（原稿依頼）」「アンケート」などを設計し実施・依頼

→人物への取材や原稿依頼の際には「その取材や依頼原稿を通してざっくりで良いので『何を伝えたい（表現したい）のか』を併せて伝えておく」と相手も話し易く・記事にしやすい。

→アンケートは「何を伝えたいか」に沿って「何を質問するのか」が決まり、またその答えから「何が読み取れる（傾向）」かを考察する手順と、事前に伝えたいことから「仮説」を立て、それを「検証する為の質問」を設計する手順がありますのでどちらが適当かなどは事前に協議をしてください。

⑤集まった素材を元に仮組みしたレイアウトに構成していく

→印刷会社に発注の際は「レイアウト（どこにどんな大きさの写真・文字・見出し等が入るのか）」したものと素材（写真・記事原稿など）を渡し作成依頼を行います。

コロナ禍で「本質」を探る結果に!?

多くの学校でコロナ禍で従来のやり方や行事が出来ず、感染予防対策に留意した上で、創意工夫を重ね、児童・生徒たちの為に様々な活動をされていると思います。前例も正解も無い試行錯誤の中で「どうしたら出来るかを考える」こと。その際に重要になってくるのが「その活動・行事は何の為に何を体験・得る為に行われているのか」を考えること。それは本質を探るきっかけになったのではないのでしょうか？

「PTA 広報紙の作り方」の技術面はもちろん重要ですが、どんな役割を持っているのかを考えるきっかけに本紙がなれば幸いです。

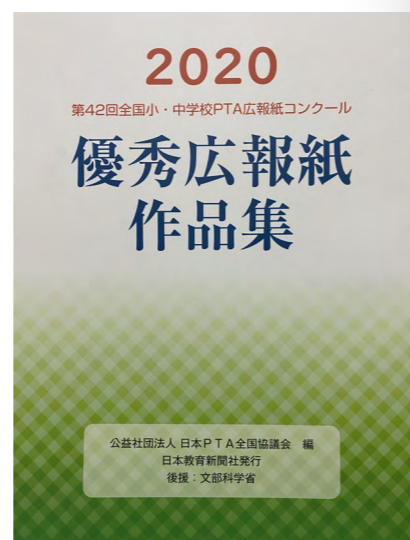
令和2年度（第42回）

「全国小・中学校 PTA 広報紙コンクール優秀広報紙作品集」

編集：公益財団法人日本 PTA 全国協議会

毎年発行されている「優秀広報紙作品集」。文部科学大臣賞などの受賞作品などが紙面に写真付きで紹介されています。受賞のポイントや広報紙の在り方・作り方が紹介されています。

購入（1200円）は山口県 PTA 連合会事務局へお問い合わせください。



PTA 広報紙の 役割 って 何でしょう？

推薦

山口県 PTA 連合会
小川副会長

「コロナ禍で
広報紙に
求められ
るものが
変化した。
」
「広報紙」
担当の会員
に贈る
ワクチン。



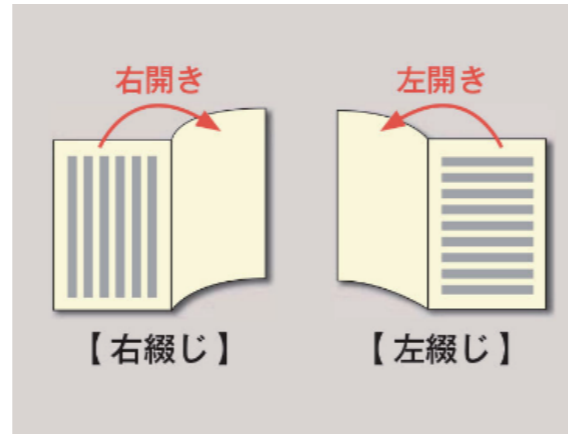
「思わず見たくなる・人に言いたくなる広報紙の作り方」
令和2年度広報委員長 佐々木淳志 著

【レイアウト】無意識レベルでの読み易さも大事!?

皆さんは本の「右開き」「左開き」があるって知ってますか？

本・漫画や雑誌の多くが「右開き(ページが右から左に向かって増える)」、教科書だと「国語」が右開きで「理科」「算数」「社会」などは「左開き(左綴じ)」が多いんです。縦組みで文字を組み、右から左へと読み進めることから「縦組みは右開き」が多く、文字組みが横組みで左から右へと読み進める時には「左開き」が一般的。

「読み易い・見やすい = 伝わりやすい」だと考えると「横組みで構成する場合は左開きが心地良く感じてもらい易く読みやすい」となります。



Zの法則とFの法則とは？

チラシや広告・モニターなどを見る時の視線誘導に「人はざっくりと目線を動かし、気になる部分を読み込む傾向」があるとされています。



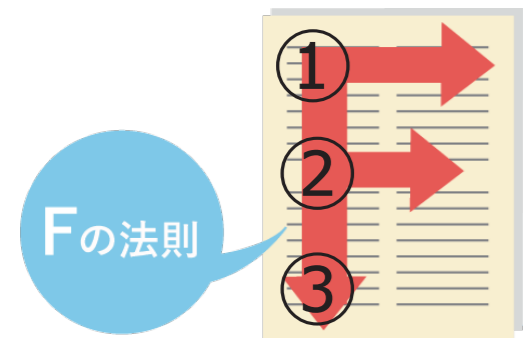
左図の様に意識に関わらずたくさんの情報の中からZ方向、またはF方向にざっくりと内容を把握し、流し読みをされ、気になる部分を初めて読み込んで貰い易いとされています。

つまり、Z方向・F方向に共通する

①にアイキャッチ→目に止まりやすい見出しや写真等を大きさを工夫して配置

③の付近にじっくり読ませたい記事などを配置することで意識的に伝えたい情報を読んでもらい易くなる傾向があります。

伝えたい情報を詰め込みがちですが「今回の広報紙で何を一番伝えたい」かを考慮して配置してみるとより見易く伝わり易い広報紙に近づくとおもいます。



違和感!?! を利用する!?!

本紙の表紙の「キャッチコピー」の配置も「Fの法則」の目線誘導を敢えて「縦組み」で構成し、「ん?」と違和感を感じてもらえる様に配置しました。疑問系にすることで「中面への興味」を助長。多くの学校の課題として、広報委員や執行部以外の会員の多くが「PTA広報紙への興味が薄く、見てもらいにくい」などがあると思います。いかに目を留め、読んで貰うかもレイアウトの工夫で緩和できるとおもっています。

【テーマ・構成】目に留めてもらう工夫+誰に何を伝えたい?

PTA 広報紙の内容・テーマは

年度1回目：新任の先生紹介・会長挨拶・校長挨拶

年度2回目：行事を写真満載で紹介・記事やアンケート

年度3回目：卒業記念号

が多い傾向です。

どうしても「写真集」になり易い傾向があります。

能動的に手に取り読まれるものと違いどちらかと言えば「受動的」に配布されるPTA 広報紙。ではPTA 広報紙の役割について考えてみましょう。

①誰に対して？

→所属学校のPTA 会員。積極的に賛同・協力してくれる会員はもちろん、特に参加・賛同を得られにくい会員に対して協力を促す。

②何を伝えたい？

→「学校行事報告」や「一部の会員に対しての情報」に偏り過ぎず、それらの行事やPTA 活動を通して「どの様に地域と連携し児童・生徒のより良い学びの為にどうしていきたい・狙い・目標」などを伝えられる様に工夫。

③何が求められている？

→多くの親にとって「1番求めるものは『児童・生徒、特に我が子のより良い学びの「環境」や「効果』』」だと思います。つまり、PTA 広報紙を見よう・見たいと思われ易いのは「我が子が載っているかもしれない」といった理由が圧倒的ではないでしょうか。それを踏まえると

1：アイキャッチ(目に留まる)

★見て貰い易くする仕掛けとして「児童・生徒が写っている行事等の写真」を活用

2：伝えたいこと(PTA 広報紙のメインの役割)

★「行事などがPTA と地域・学校の連携により、児童・生徒にとって良い効果が出た(出ている)事例」などを紹介

3：伝えたいこと(会員の活性化・協力体制の強化)

★さらにより良い効果を生む為に会員の協力や参加が必要であることを織り交ぜる

★実態調査記事や子育てなどに役立つ情報などを加えることで「PTA 広報紙の価値」が高くなり、次号以降も継続読者になり易い